

農村検診センターに於ける 昭和54年度検診結果とその分析

厚生連滑川病院 一 柳 兵 蔵
松 井 規 子

緒 言

昭和54年3月厚生連滑川病院に隣接して農村検診センターが設立され、同年7月より業務を開始した。呉東、呉西地区27単位に行った7月より12月の間に於ける受診状況及び結果を報告し若干の検討分析を行った。

検診センターは健康管理を主目的として検診指導を行い、検査項目によりA・B・Cコー

スを定めた。

1. 受検診人員の年令と性別 (第1表)

受検診人員総数542名中、男345名、女197名であった。年令別では40才代193名(35.7%)が最も多く、次いで50才代179名(33.0%)で60才代30才代之に次ぎ20才代70才代は僅少であった。従って検診人員の年代は40才

農協別、年代別、性別受診状況 (第1表)

年代別	農協名		朝日中央農協		大家庄農協		入善町農協		入善酪農組合		黒部農協		黒部信濃農協		魚津市農協		道下信濃農協		経田信濃農協		立山町農協		上市町農協	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
20～29				1													1				1			
30～39				3		1		1	4	1								2	3		1	2	6	1
40～49	1	1	8		1	1	3	4												1	2	6	6	
50～59			9				5	6		1	6				1		5			2	2	6	2	
60～69			1				2	3	1		5						1	2				3	1	
70以上											6													
計	1	1	22		2	1	11	17	2	1	19				1	4	10		3	6	15	4		
合計	2		22		3		28		3		19		1		14		3		21		4			
年代別	農協名		滑川市農協		富山市中央農協		呉羽農協		婦中町農協		八尾町農協		小杉町農協		高岡市中田農協		戸出町農協		氷見市農協		砺波市農協		福野町農協	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
20～29	3	2															2	1		1				
30～39	13	7	2							2	3			2	2	10	9	2	2					
40～49	19	10					1	10	3					3	5	11	13	3	22	2			2	
50～59	12	8								13	6	1		11	9	16	4	7	4					7
60～69	8	4								4	2			6	6	6	4	3	2					7
70以上	1	1				1								1		1								1
計	56	32	2			1		1	29	14	1		23	22	46	31	15	31		2				17
合計	88		2		1		1		43		1		45		77		46		2		17			
年代別	農協名		県中央農協		県信連		県経済連		県厚生連		県共済連		その他		計		総計							
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	人員	%						
20～29															8	4	12	2.2						
30～39					1	1					2				40	30	70	12.9						
40～49	1		6	3	31	6			5	1	1				113	80	193	35.7						
50～59	2		3	1	23	1	5					1			124	55	179	33.0						
60～69	1						4								50	26	76	14.0						
70以上															10	2	12	2.2						
計	4		9	5	55	7	9		5	3	1	1			345	197	542							
合計	4		14		62		9		8		2				542									

代50才代が68.7%を占めていた。

2. 家族歴調査 (第2表)

受検人員の家族歴調査に於て家族歴に疾患のあるもの 348例 (64.2%)、無いもの 194例 (35.8%) で過半数が家族歴に何らかの疾患を有するものであった。内容を検討するに脳卒中129例 (37.1%)、ガン127例 (36.5%) で最も多く、次いで高血圧75例 (21.6%)、心臓病56例 (16.1%) が主なものであった。即ち脳卒中とガンが略同率36%~37%の高率を占めている事は北陸地区の特徴とみられる。尚、高血圧、心臓病の家族歴もこれに次ぎ多い。糖尿病家系は41例 (11.8%) であった。

3. A・B・Cコースの受診状況 (第3表)

Aコースは身体計測、理学的検査、血圧、
精密成人病検診家族歴状況 (第2表)

農協名	家族歴			疾病内容					その他
	受診者数	無	有	糖尿病	脳卒中	高血圧	心臓病	癌	
朝日町中央農協	2	1	1		1				
大 家 庄 農 協	22	14	8	3		4		3	
入 善 町 農 協	3	2	1				1		
入 善 協 農 組 合	28	10	18	4	9	2	2	2	3
黒 部 農 協	3	1	2					1	1
黒 部 市 信 用 農 協	19	9	10		5	5	2	2	
魚 津 市 農 協	1	0	1		1				
道 下 信 用 農 協	14	5	9	1	2	0	2	6	
経 田 信 用 農 協	3	3	0						
立 山 町 農 協	21	6	15	3	5	2	2	7	2
上 市 町 農 協	4	1	3		3	1		2	
滑 川 市 農 協	88	31	57	9	18	12	7	23	9
富 山 市 中 央 農 協	2	0	2		2				
呉 羽 農 協	1	0	1					1	
婦 中 町 農 協	1	0	1					1	
八 尾 町 農 協	43	16	27		15	4	4	10	3
小 杉 町 農 協	1	1	0						
高 岡 市 中 田 町 農 協	45	12	33	3	12	9	8	10	4
戸 出 町 農 協	77	23	54	5	18	14	10	20	6
氷 見 市 農 協	46	17	29	7	10	5	3	10	2
砺 波 市 農 協	2	1	1						1
福 野 町 農 協	17	4	13	2	4	3	2	3	
県 中 央 会	4	1	3				2	2	
県 信 連	14	4	10	1	3	1	2	6	
県 経 済 連	62	27	35	1	16	10	5	13	3
県 厚 生 連	9	2	7	2	3	2	2	3	2
県 共 済 連	8	3	5		2	1	1	1	
そ の 他	2	0	2				1	1	
計	542	194	348	41	129	75	56	127	36
	%	(35.8)	(64.2)	(11.8)	(37.1)	(21.6)	(16.1)	(36.5)	(10.3)

心電図、胸部レントゲン検査、尿尿検査、血液検査、生化学検査、血糖、肺機能検査、視力検査を行い、Bコースはこれに胃レントゲン検査を追加し女性の場合は婦人科検診を更に加えた。Cコースは更に眼底検査、腰椎レントゲン検査を加えたものである。Aコース 79名 (14.5%)、Bコース 109名 (20.1%)、Cコース 354名 (65.3%) でCコースが特に多数であった。

4. 総合判定区分 (第3表)

総人員542名中異常なし113名 (20.8%) 要注意133名 (24.5%) 要精査183名 (33.9%) 要医療 113名 (20.8%) であった。但しこれは54年度内に於ける検診結果である。

昭和54年精密成人病検診実施状況(第3表) S 54.7.14~54.12.20まで

農協名	受診者数 (人)	性別		コース別				判定区分			
		男(人)	女(人)	A	B	C	その他	異常なし	要注意	要治療	要精密
朝日町中央農協	2	1	1	1		1	眼科1 婦人科1	1			1
大家庄農協	22	22				22	胃Mなし	7	7	2	6
入善町農協	3	2	1			3				2	1
入善酪農組合	28	11	17	28			眼底(9)	10	5	5	8
黒部農協	3	2	1			3			3		
黒部信用農協	19	19				19		1	5	5	8
魚津市農協	1		1			1			1		
道下信用農協	14	4	10			14		3	3	3	5
経田信用農協	3		3			3			1	1	1
立山町農協	21	6	15	5	3	13		3		9	9
上市町農協	4	4				4			1	1	2
滑川市農協	88	56	32	10	3	75	眼底(1)	18	27	19	24
富山市中央農協	2	2			2			2			
呉羽農協	1		1			1				1	
碓中町農協	1		1			1			1		
八尾町農協	43	29	14			43		10	6	7	20
小杉町農協	1	1		1							1
高岡市中田農協	45	23	22	15	19	11	眼底11 腰椎(3)	6	13	10	16
戸出町農協	77	46	31		77		眼底4 胃なし1	20	15	19	23
氷見市農協	46	15	31	2	5	39		12	12	10	12
砺波市農協	2	2				2			2		
福野町農協	17	17		17			眼底16	4	4	5	4
県中央会	4	4				4				1	3
県信連	14	9	5			14		3	5		6
県経済連	62	55	7			62		9	17	10	26
県厚生連	9	9				9				2	7
県共済連	8	5	3			8		4	3	1	
その他	2	1	1			2			2		
計	542	(63.7) 345	(36.3) 197	(14.6) 79	(20.1) 79	(65.3) 354		(20.8) 113	(24.5) 133	(20.8) 113	(33.9) 183

5. 判定内容の分析

(1) 要注意者の分析(第4表)

高脂血症及び肥満が最も多く、各々68例(12.5%)で両者は関連性が濃厚であった。

殆んど女性に多い。心肥大が次に多く44例(8.1%)で肥満と高血圧に合併するものが多い。高血圧39例(7.1%)に認め、これは境界高血圧の程度で生活、労働、食事に注意を要する程度のものである。高脂血症、高血圧に関連する動脈硬化9例(1.6%)、冠不全11例(2.0%)、心筋障害3例、陳旧心筋梗塞1例、大動脈硬化7例(1.3%)を認めた。その他右脚ブロック9例、房室ブロック2例、期外収縮等が認められた。

脂肪肝疑54例(10.0%)で特異的に男に多く女に極めて少ないことから、酒との関連性

が濃厚に認められた。アルコール性脂肪肝と判定されたもの7例認めた。

B型肝炎ウイルス保有者13例(2.4%)で、内訳は入善酪農組合1例(女)、経田信用1例(女)、立山町1例(女)、八尾町1例(男)、戸出町2例(男)、氷見市1例(男)、1例(女)、県経済連1例(男)、県共済連2例(男)、滑川市1例(男)、1例(女)、計男8例、女5例で入善、魚津、滑川、立山町、八尾町、戸出町、氷見市に散在性に認められた。肝炎の原因として注意を要する。肝障害18例(3.3%)に認めた。

胃炎29例(5.4%)に認め食生活の規正化が望まれる。婦人科では子宮筋腫7例(1.3%)子宮頸管ポリープ2例何れも経過を観察程度のものである。

要 注 意 者 内 容 分 析 (第 4 表)

性 別	男	女	人 員	%	性 別	男	女	人 員	%	性 別	男	女	人 員	%		
病 名	受 診 者 数	345	197	542		病 名	受 診 者 数	345	197	542		病 名	受 診 者 数	345	197	542
高 血 圧	26	13	39	7.1	胃 炎	25	4	29	5.4	腰 椎 圧 迫 症	3		3	0.6		
動 脈 硬 化	9		9	1.6	胃 ポ リ ー プ	1		1	0.2	腰 椎 仮 性 圧 迫 症	1	1	2	0.4		
冠 不 全	6	5	11	2.0	胃 下 垂	1		1	0.2	腰 椎 々 間 板 障 害	5	1	6	1.1		
心 筋 障 害	2	1	3	0.6	胃 憩 室	1		1	0.2	腰 椎 分 離 症	1		1	0.2		
心 肥 大	17	27	44	8.1	十 二 指 腸 憩 室	8	1	9	1.7	陳 旧 胸 椎 圧 迫 骨 折		1	1	0.2		
左 心 肥 大	2		2	0.4	十 二 指 腸 炎	1		1	0.2	潜 在 性 背 椎 披 裂		2	2	0.4		
陳 旧 心 筋 梗 塞	1		1	0.2	肝 障 害	9	9	18	3.3	リ ウ マ チ 反 応 陽 性	1		1	0.2		
心 室 性 期 外 収 縮	1	2	3	0.6	脂 肪 肝 疑	52	2	54	10.0	肥 満	30	37	67	12.4		
上 室 性 期 外 収 縮	1	1	2	0.4	ア ル コ ー ル 性 脂 肪 肝	7		7	1.3	眼 底 白 斑	1		1	0.2		
期 外 収 縮	1	1	2	0.4	高 脂 血 症	46	22	68	12.5	頭 部 外 傷 後 遺 症	1		1	0.2		
不 整 脈		2	2	0.4	ア ル コ ー ル 性 肝 障 害	4		4	0.7	低 血 圧		1	1	0.2		
房 室 ブ ロ ッ ク	2		2	0.4	B 型 肝 炎 ビ ル ス 陽 性	8	5	13	2.4	削		2	1	3	0.6	
右 脚 ブ ロ ッ ク	4	3	7	1.3	コ リ ン エ ス テ ラ ー 高 値	1		1	0.2	閉 塞 性 肺 機 能 障 害	1		1	0.2		
不 完 全 右 脚 ブ ロ ッ ク	2		2	0.4	腎 障 害	3		3	0.6	肋 膜 癒 着	2		2	0.4		
滴 状 心	1		1	0.2	尿 蛋 白 陽 性	5		5	0.9	慢 性 上 気 道 炎	1		1	0.2		
貧 血	1	5	6	1.1	尿 蛋 白 弱 陽 性	1	2	3	0.6	僧 帽 弁 膜 症	1		1	0.2		
白 血 球 増 多	1		1	0.2	高 尿 酸 血 症	1		1	0.2	陳 旧 腰 椎 圧 迫 骨 折	2	1	3	0.6		
陳 旧 肺 浸 潤	2		2	0.4	糖 尿	1		1	0.2	骨 粗 鬆 症	2	1	3	0.6		
胸 廓 成 形	1		1	0.2	血 糖 高 値	2	2	4	0.7	肝 炎	1		1	0.2		
拘 束 性 肺 機 能 障 害	2		2	0.4	甲 状 腺 腫					γ G T P 高 値	1		1	0.2		
肋 膜 肥 厚	2		2	0.4	扁桃 腺 肥 大	1		1	0.2	尿 素 窒 素 高 値	2		2	0.4		
大 動 脈 硬 化	5	2	7	1.3	子 宮 筋 腫		7	7	1.3	尿 潜 血 陽 性	2		2	0.4		
肺 気 腫	6		6	1.1	子 宮 頸 管 ポ リ ー プ		2	2	0.4							
珪 肺	4		4	0.7	変 形 性 腰 椎 症	36	12	48	8.9							

変形性腰椎症48例(8.9%)、腰椎々間板障害6例(1.1%)、腰椎圧迫症3例が要注意であった。

(2) 要精検者分析 (第 5 表)

最も多いのが胃炎70例(12.9%)で潰瘍や悪性病変と確実に鑑別するために胃カメラ検査を必要としたものである。胃ポリープ疑も同様に悪性病変と鑑別する必要があったが、9例(1.7%)に認めた。胃潰瘍疑40例(7.4%)、十二指腸潰瘍疑14例(2.6%)何れも潰瘍との確実な判定が必要とされた。糖尿病と判定されしもの7例で精査の上治療方針、食事療法の決定を要するものであった。

血糖高値31例(6.8%)は尿糖陰性であるが血糖異常高値、あるいは境界値を示すもので

要 精 検 査 内 容 分 析 (第 5 表)

性 別	男	女	人 員	%	性 別	男	女	人 員	%	
病 名	受 診 者 数	345	197	542		病 名	受 診 者 数	345	197	542
動 脈 硬 化	1		1	0.2	十 二 指 腸 球 部 充 盈 不 充 分	1		1	0.2	
洞 性 頰 脈	1		1	0.2	吻 合 部 潰 瘍	1		1	0.2	
頻 脈		1	1	0.2	尿 石 疑	2		2	0.4	
貧 血		3	3	0.6	胆 石 疑	2	2	4	0.7	
白 血 球 増 多	1		1	0.2	腎 石 疑	1		1	0.2	
肺 浸 潤	1		1	0.2	糖 尿 病	7		7	1.3	
肺 門 異 常 陰 影	1		1	0.2	血 糖 高 値	13	18	31	6.8	
胃 潰 瘍 疑	30	10	40	7.4	甲 状 腺 腫	2	16	18	3.3	
十 二 指 腸 潰 瘍 疑	11	3	14	2.6	肝 障 害		2	2	0.4	
線 状 潰 瘍 疑	1	1	2	0.4	腰 椎 々 間 板 障 害	2	1	3	0.6	
胃 潰 瘍 癒 痕 疑		1	1	0.2	変 形 性 腰 椎 症	1	1	2	0.4	
十 二 指 腸 癒 痕 疑	1		1	0.2	割 腎 症	1		1	0.2	
胃 底 部 陰 影	1		1	0.2	リ ウ マ チ 反 応 陽 性		2	2	0.4	
胃 炎	54	16	70	12.9	尿 素 窒 素 高 値	1	1	2	0.4	
胃 ポ リ ー プ 疑	5	4	9	1.7	尿 潜 血 陽 性	1	6	7	1.3	
食 道 ポ リ ー プ	1		1	0.2	眼 底 網 状 血 管	1		1	0.2	
十 二 指 腸 憩 間 大	1		1	0.2	血 尿	1		1	0.2	
食 道 裂 口 ヘルニア	1		1	0.2	腰 椎 圧 迫 症	1		1	0.2	
胃 腸 吻 合 部 埋 没 疑	1		1	0.2	便 潜 血 陽 性		2	2	0.4	

糖尿病との鑑別及び治療の要否を決定する必要を認めた。

貧血3例ではその原因につき精査を必要とした。尿潜血陽性は月経と関係なきもので泌尿器科、婦人科に於て原因精査が必要と考えられたものである。

甲状腺腫18例(3.3%)で病的意義の有無につき精査を要せしものである。

(3) 要医療者の分析 (第6表)

医療を要する高血圧54例(10.0%)に認めた。農村に於ける健康管理上最も多発する病気として重要である。男11.3%、女7.6%であった。次に高率を示すのは肝炎20例(3.7%)に認め、男19例(5.5%)、女1例で男の高率が注目される。呉東呉西地区に散在性にB型肝炎ウイルス保有者が2.4%に認められる事よりウイルス性が最も考えられるが、その他薬剤性及びアルコール性もあるものと思われる。

貧血17例(3.1%)に認めた。女5%、男2%で女に多い。糖尿病6例(1.1%)に認めた。胃潰瘍、胃炎、腎障害等がみられた。腰椎々間板障害、変形性腰椎症、婦人科では子宮筋腫4例が治療を要した。

胃潰瘍 4 4 0.7
十二指腸潰瘍 1 1 0.2
胃 炎 1 1 0.2
肝 炎 19 1 20 3.7
肝 障 害 1 3 4 0.7
アルコール性肝障害 1 1 0.2

心 房 細 動 1 1 0.2
心 拵 大 1 2 3 0.6
心 肥 大 1 1 0.2
心室性期外収縮 1 1 2 0.4
貧 血 7 10 17 3.1
胃 潰 瘍 4 4 0.7
十二指腸潰瘍 1 1 0.2
胃 炎 1 1 0.2
肝 炎 19 1 20 3.7
肝 障 害 1 3 4 0.7
アルコール性肝障害 1 1 0.2

6. 総 括

(1) 検診人員総数542名、男345名、女197名、年代別では40才代、50才代が68.7%を占めている。

(2) 家族歴調査では家族歴で疾患を有するもの348例(64.2%)で脳卒中及びガンが各々37%を占めている。次いで高血圧21.6%心臓病、16.1%であった。糖尿病家系は11.8%に認めた。

(3) A、B、CコースではAコース14.6%、Bコース20.1%、Cコースが65.3%の検診頻度であった。

(4) 総合判定区分では異常なし20.8%、要注意者24.5%、要精査者33.9%、要医療者20.8

要医療者内容分析 (第6表)

性 別	男 女 人員 %				性 別	男 女 人員 %			
	病 名	受診者数	345	197		542	病 名	受診者数	345
高 血 圧	39	15	54	10.0	腎 炎	2		2	0.4
動 脈 硬 化	5		5	0.9	肝 障 害	4		4	0.7
脳 栓 塞 後 遺 症	1		1	0.2	尿 素 窒 素 高 値	1		1	0.2
高 血 圧 腎 症	1		1	0.2	糖 尿 病	6		6	1.1
腎 性 高 血 圧		1	1	0.2	糖 尿 病 性 網 膜 症	1		1	0.2
冠 不 全	1		1	0.2	変 形 性 腰 椎 症	2	2	4	0.7
心 房 細 動	1		1	0.2	腰 椎 々 間 板 障 害	3	4	7	0.3
心 拵 大	1	2	3	0.6	腰 椎 圧 迫 症	1		1	0.2
心 肥 大		1	1	0.2	陳 旧 性 腰 椎 圧 迫 骨 折	1		1	0.2
心室性期外収縮	1	1	2	0.4	変 形 性 膝 関 節 症	2	1	3	0.6
貧 血	7	10	17	3.1	関 節 リ ウ マ チ	1	1	2	0.4
胃 潰 瘍	4	4	8	1.5	子 宮 筋 腫		4	4	0.7
十二指腸潰瘍		1	1	0.2	子 宮 頸 管 ポ リ ー プ		2	2	0.4
胃 炎	1	1	2	0.4	子 宮 筋 腫		1	1	0.2
肝 炎	19	1	20	3.7	パ ー キ ン ソ ン 氏 病	1		1	0.2
肝 障 害	1	3	4	0.7	東 洋 毛 糠 線 虫		1	1	0.2
アルコール性肝障害	1	1	2	0.4	卵 巢 腫 瘍		1	1	0.2

%であった。

(5) 要注意者の内容分析では高脂血症及び肥満が12.5%に認められ、両者に相関性を認めた。心肥大8.1%で肥満と高血圧に関連性認める。その他動脈硬化、冠不全、心筋障害、陳旧心筋梗塞、右脚ブロック、房室ブロック、期外収縮等があった。

消化器系では脂肪肝疑10%に認め、特異的に男に多く酒との関連性濃厚であった。

B型肝炎ウイルス保有者13例(2.4%)に認め呉東呉西地区に散在性に認めた。その他軽症の子宮筋腫、変形性腰椎症等がみられた。

(6) 要精査者では精査を要する胃炎70例(12.4%)胃潰瘍疑40例(7.4%)、十二指腸潰瘍疑14例(2.6%)、血糖高値31例(6.8%)、甲状腺腫18例(3.3%)が主たるものであった。

(7) 要医療者の内容は高血圧54例(10.0%)で男11.3%、女7.6%であった。

肝炎20例(3.7%)で男19例(5.5%)の高率が注目される。

貧血17例(3.1%)で女5%、男2%であった。要治療の糖尿病6例(1.1%)認めた。

その他動脈硬化、胃潰瘍、腎炎、腰椎々間板障害、変形性腰椎症、婦人科で子宮筋腫等が要治療であった。